第４回ＧＩＳセミナー（高知）　講演概要

●事例紹介１「ＧＩＳで地域の情報発信　－ｅタウン・うじの事例」

講師：京都府宇治市総務部ＩＴ推進課係長　中村 俊二 氏

【「ｅタウン・うじ」取り組みの背景】

「ｅタウン・うじ」というのはサイトの名前です。この「ｅタウン・うじ」を運営しているのが「宇治大好きネット」という市民団体です。

総務省の外郭団体ＮＩＣＴが、宇治に「ＧＩＳ研究開発支援センター」を設置いただきました。そこで地元のＩＴ業者がＧＩＳについて研究に取り組み、それなりの成果が出てきて、それをできる限り市民に使ってもらうという考えで「ｅタウン・うじ」が誕生しました。

それまでのＧＩＳは専用ツールが必要で、値段が本当に高くて、また、Ｗｅｂでは通信速度が遅いこともあり、一般的なツールではありませんでした。そして、できるだけ簡単にＧＩＳを導入できる仕組みをということで、ＳＶＧという規格（アクロバットリーダーを開発したアドビ社の形式）で、ベクトル画像を組み込んで、簡単に誰でも使えるようなものをつくろうと取り組んだのが、地元ＩＴ業者が開発したエンジンを載せた「ｅタウン・うじ」です。そして、利用してもらうことが大事だということで、市民の意見を聞きつつシステム構築を行いました。

【取り組み体制】

設立当初は 42 団体でした。ＩＴを利用してより良い町づくりに貢献することを主たる目的としましたが、「ｅタウン・うじ」の管理運営、ＩＴの啓発活動、よりわかりやすいベースマップをつくるといった当初の予想を越えたものまで事業としていくことになりました。

現在、行政、地元のＩＴ企業、そして市民団体という三者がそれぞれの役割を担い運営しています。行政の役割は環境、サーバー類の保守などで、サーバーなどは役所の中に置いています。特に宇治市役所でこのことにはお金をかけてはいませんが、運営について協力をしています。

また、ホームページの作成ツールを地元のＩＴ企業がつくり、メンテナンスとかアイデアの提供といったようなことをしています。

それから、市民団体の方がサイトの運営、コンテンツの入力、広報活動などに動いています。

最初、平成 16 年度時点では、宇治市のＩＴ推進課、学習センター、京都大学、ＧＩＳの研究開発支援センター、地元の開発業者といったところが入っていました。しかし、やはり市民組織として確立していかなければいけないということで、今年度は、ほとんどが市民団体に移ってきて、市民団体以外は市のＩＴ推進課とワオネットの２団体だけで活動しております。

これが「ｅタウン・うじ」のトップ画面ですが、この内容もすべて市民に考えていただいています。目的別、地図で検索、団体別、施設別という４つの中から選ぶことになっています。目的別で選ぶ時はジャンルで探していきますが、地図で検索というところを開くと地図が出てくる、といったシステムになっています。

データはすべてインターネット上から市民の方がアップロードしています。やはり一からホームページをつくるというのは大変なので、入力方法は６種類に定型化してあり、その組み合わせでインターネット上から画像も文章も落とし、それを地図上に入れていくというシステムで、日々更新しています。

今日、確認したらアクセス数は 85,476 でした。だいたい１日平均 150 のアクセスがあるということです。もっと増やしたいと思っています。

【「ｅタウン・うじ」の特徴】

まずは、ホームページが簡単に作れること。市民自らがデータを落とすということになっていますので、簡単でなければだめだと市民の方からの要望があり、「ワープロができて家でメールをしている人がホームページを作れるような仕組みを」と言われたわけです。それで、ホームページを簡単に作れるシステムを作りました。

そして、ＷｅｂＧＩＳを搭載しているのも特徴だと思います。ＧＩＳを使う事自体が目的ではありませんから、自分たちの発信したいことをＷｅｂ上に出すときに地図があればいいという考え方でやっています。

宇治の町中で紹介したいところを一生懸命探している「ええとこめっけｕｊｉ」という団体があるのですが、その団体は宇治のいいポイント、例えば「今日ここに桜の花が咲いたよ」などといった情報を地図上に落としていっています。

もう一つは、やはり市民団体が運営しているということです。今、自治体は転機で、住民自治というものを本当に真剣に考えていかなければならない時期になっていまして、自治体経営の一手法として、市民にも住民自治を意識してもらう必要があります。お金がない実情もあって、「すみません、皆さんでやってください」というのが本音で、運営させてもらっている部分もあります。

【「宇治大好きネット」の活動】

平成 18 年 1 月 18 日から 2 月 22 日、地域の人々が小学校の総合学習に参加をしていこうという話になり、ご紹介したシステムも授業の中でその地域の宇治大好きネット役員の方が教壇に立って、データづくりや、ＧＩＳのポイントを落とすというようなことを教えています。一昨日は子供たちが記事を書き入れる１回目の日でした。

これは「ｅタウン・うじ」のシステムを、前もって子どもたちに教えているところです。

課題はたくさんあって説明する時間はないのですが、私が感じたのは、実際その地域の中に入ると、本当に力のある人々がたくさんいるということです。市民力です。ですから、そういった人たちを結びつける役割をはたし、地域力としてさらに皆さんが輝いてもらえるように、今後もしっかりとやっていきたいと思っています。

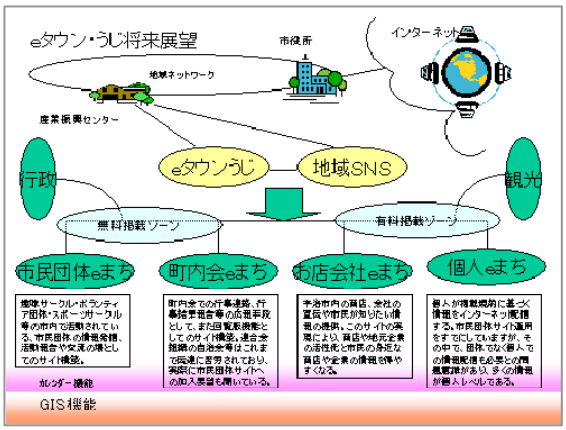
またＧＩＳについては、ＧＩＳがあるからデータを落とすということではなくて、人々が表現しようとしたときに、目の前にＧＩＳがあった。その時は皆さんものすごく喜ばれるのです。それから、実は、昭和 30 年代の宇治の写真を歴史資料館で集めたのですが、それを地図に貼りたいという話が市職員の中から出たのです。そのときに宇治大好きネット役員の人なんかは、ＧＩＳが「ｅタウン」の中にあると分かっていますから、すぐ飛びつくわけです。それを宇治のＧＩＳ、「ｅタウン」の中に入れたいと思うわけです。ですから、技術者も増やさなければいけないという話もありましたが、私は、技術者だけというのではなく、もう一歩高いレベルを知ってもらうような市民、そういった層も増やしていくことが重要ではないかと思います。

また、会員を対象としたＰＣ教室・ホームページ作成講習会や市民対象のセミナーなども実施しています。

【「ｅタウン・うじ」の将来展望】

今私たちでやっているのは対象が市民団体だけなんですね。市民から見れば町内会もあれば商店もあるし個人もいる。その中にプラスとして行政もあるという感覚、そういった視点で進めていきたいと思っています。

そこで、私は、地域ＳＮＳというものがどうしてもあって欲しいと思っています。そういったものを全部含めて、表現できるフィールドとしてカレンダー機能があり、ＧＩＳがあると思うのです。そういったものを結びつける為には、やはりＧＩＳというのはすごく大きな武器になると考えていますので、今後そういう視点で、地域の皆さんと頑張っていきたいと思っています。



― 了 ―